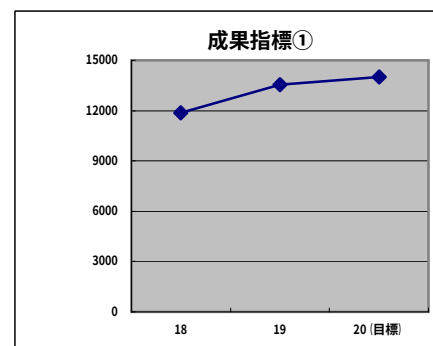
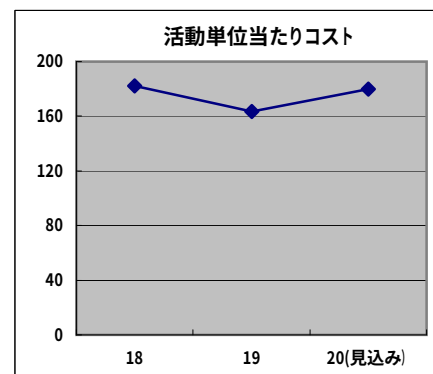


事務事業名		学校図書館支援事業		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち		款	10	教育費
	施策(節)	3	生涯学習		項	5	社会教育費
	施策の方向	(3)	図書館活動の充実		目	9	図書館運営費
関連する計画等	羽曳野市子ども読書活動推進計画				事業	8	図書館総合運営
作成部署				教育委員会事務局生涯学習室図書館課			
連絡先				072 - 950 - 5501 内線			
対象(誰を・何を)							
学校図書館							
意図(どういう状態にしたいのか)							
学校図書館への支援を行い、児童生徒の主体的な学習活動や豊かな感性を育む。							
事業の内容							
学校での調べ学習などへの資料の提供や、レファレンスへの対応を行い、週2回の連絡車で本の配送をする。学校図書館の機能充実のための援助を行う。							
根拠法令等		図書館法					
事業開始時期		☐ 昭和 ☒ 平成 8 年 月開始 ☐ 明確にはわからない				終了年度	平成 年度
事業開始時からの状況変化		事業開始当初に比べ、7 倍の資料が利用されるようになった。					
市民や議会の要望							
実施手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☐ 外郭団体委託 名称 ☐ 民間委託		委託内容			

区 分		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)				300
人件費【2】 (千円)		2,160	2,220	2,220
職員数	正規職員	0.10 人	0.05 人	0.05 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.55 人	0.60 人	0.60 人
	臨時職員	0.00 人	0.20 人	0.20 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		2,160	2,220	2,520
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	2,160	2,220	2,520
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
① 学校貸出冊数	冊	11,858	13,563	14,000
②				
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		182 円	164 円	180 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		18 円	18 円	21 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	平成20年度
	①	貸出冊数(冊) (式)		目標実績	10,000	12,000	達成率(%)
					11,858	13,563	113.0%
	②	(式)		目標実績			達成率(%)

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	学校での資料を介しての授業において、資料を収集している図書館の関与は必要不可欠である。
		○									

視点	分析のためのチェック点			分析・評価の説明		
	はい	いいえ	該当なし			
妥当性	市民ニーズが高い			☒	☐	☐
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない			☒	☐	☐
	社会情勢の変化に対応している			☒	☐	☐
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない			☒	☐	☐
	国・府の事業と重複していない			☒	☐	☐
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい			☒	☐	☐
	緊急性が認められる			☐	☒	☐
効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）			☒	☐	☐
	受益者負担の割合は適当である			☒	☐	☐
	人員を削減する余地がない			☒	☐	☐
	事業費を削減する余地がない			☒	☐	☐
	簡略化できる方法や手段がない			☒	☐	☐
	市の他事業と重複していない			☒	☐	☐
	民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない			☒	☐	☐
有効性	上位の施策（目的）が明確である			☒	☐	☐
	上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である			☒	☐	☐
	成果を向上させる余地がない			☒	☐	☐
	市民の視点にたってサービスが提供されている			☒	☐	☐
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している			☐	☐	☒
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている			☐	☐	☒
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している			☐	☐	☒
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている			☐	☐	☒
達成度	成果指標の目標値は適正である			☒	☐	☐
	成果指標の実績値は目標値以上である			☒	☐	☐
	成果指標は前年度より向上している			☒	☐	☐

担当 部局 評価	総合評価					
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了					
	評価の理由					
	学校図書館との連携を深めることで、図書館の活動指標のひとつである、児童サービスの充実強化に役立つ。 今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）					
	児童・生徒の主体的な学習活動を進めていくため、学校図書館への支援の拡大を図る。					